

# 特別講義「世界と日本の未来を考える」

## ～ 学長 × 受講者 座談会 ～

学部・学年の枠を超えて開講された、特別講義「世界と日本の未来を考える」。今回、授業を受講し終えたばかりの受講者の方や過去に受講された受講者の方に、水口学長が、受講のきっかけや授業の様子について話をうかがいました。



### 高崎経済大学でしか受けられない 外部講師による授業が魅力

学長：みなさん、授業お疲れさまでした。今日は、今年の特別講義を受講された久保さんと2021年に受講された溝渕さんをお招きしました。お二方がどんな気持ちでこの特別講義を受講したのか、実際に受講してみてどうだったかなどについてお話をうかがいたと思います。まずは、受講したきっかけを教えてください。

溝渕：1年生の後期に、1つ高崎経済大学らしい授業を取っておきたいなと思った時に、豪華なゲスト講師の方が高崎に集まってくれる特別講義を受講したいと思いました。今後4年間をどのように過ごすかを考えるきっかけになればいいなと思い受講することにしました。

久保：私は2年生の時に外部の様々な知識を吸収して教養を身に着けたいという思いがあり、外部講師との関わりや自分自身で新規事業を立ち上げるカリキュラムに惹かれて特別講義を受講しました。

学長：授業の中で一番印象に残っていることは何ですか？この講師の方が面白かった、この言葉が響いたなどありますか？

溝渕：一番印象に残っているのは NEC の野口さんと石川さんです。全体的に話し方や壇上での振舞

い方など今まで人生の中で出会った人の中で、ずば抜けて話し方が上手かったという印象です。

授業冒頭で人生が変わるような話をしたいとおっしゃって自らハードルを上げながらも、それに見合った話をしていて、後ほど久保さんの感想も聞いてみたいです(笑)。また、2つ印象に残った言葉があって「自分の感覚に素直になって行動する」「大きいと思われる社会課題の解決でも、その根底は1人の人間の小さな思いから始まっている」という言葉です。その当時、どこから始めていいか分からなかった私にとって、とても印象に残っていて、大きなことを成し遂げようとして空回りしていた時期の自分にとってこの言葉から気付きを得られました。

学長：ハードルを自ら上げることは中々できないよね(笑)。



久保：自分も同じく NEC の石川さんのお話が印象に残っています。「人は変わる」という言葉を強調されてお話をされていたので、聞いたときに自分が将来何をしたいかという人生設計をもう一度考え直す機会がその授業以降に生まれました。NEC のテクノロジーのお話も印象に残っていますが、それ以上に人間の持つ可能性や人としての在り方を、心に響く伝え方で講義して頂いて、自分の中で変化が生まれた講義でした。

## 受講者同士のグループワークで コミュニケーション能力の向上も

学長：講義全体で何か身についたことがあれば、ぜひ教えてください。

久保：講義前半は様々な分野で働くリーダーの方のお話を聞いて、後半は新規事業を立ち上げるワークショップをしましたが、グループ内での意見や、人とのぶつかり合いを否定せずに一番良い結果を生み出すというプロセスを学ぶことができたというのが一番身についたことかなと思います。今回リーダーをさせていただいたのですが、他の人の意見をまず聞いて、ただ受け入れたり突っぱねるだけでなく、そこに自分の考えを混ぜ込んでお互いが納得できる、妥協ではない新たな考え方を学ぶことが出来ました。

学長：井澤さんがグループワークの仕方とかいろいろと教えてくださいました。「当たり障りのないことは言わないように」というあのメッセージは中々強烈でしたね(笑)。あれはとても役に立つアドバイスだと思います。ちなみに久保さんは学生賞を取ったんですね。

久保：担当した企業は NEC で、テーマは「脱炭素時代の群馬県内におけるインフラ整備における課題の解決」です。企業からの意見として、様々な先行事例が存在するとアドバイスをいただきましたが、学生からの投票では1位という結果でした。

学長：交通の情報を集めて、効率的な交通網を作るという内容でしたよね。

久保：はい。企業からアドバイスを貰える環境があったのが今回の授業で良かった点でした。

学長：溝渕さんも2年前グループワークをしましたか？

溝渕：グループワークしましたね。住友林業で障害のある方へ向けた課題解決でした。当時、賞をいただいた訳ではなかったのですが、障害のある方が住む総合住居を考えて提案したのを鮮明に覚えています。



## この授業でしかできない経験がある

学長：昨年から学生賞という新しい賞を作りました。受講生同士で投票して学生が一番良いと思うものを選ぶ賞です。その学生賞に久保さんのチームは選ばれました。

久保：自分一人の力では決して取ることができる賞ではなかったと思うので、みんながやるべきことをやった成果だと思います。しっかりリーダーシップを取って仕事を割り振ることでいろいろな人が得意分野で仕事を行うことができたのが学生賞を取れた要因かと思っています。

学長：溝渕さんは授業が一つのきっかけになって起業サークル「その先の高崎」で活躍することになったんですね。

溝渕：起業サークル「その先の高崎」には講義の受講前から加入していました。

学長：この講義は「その先の高崎」の活動に活きましたか？

溝渕：かなり活きました。企業の立場に立って社会課題を解決するという流れが効果的でした。昨年、「その先の高崎」の代表に就任した際に「その先を照らせプロジェクト」というイベントを開催しました。その時に実際に群馬の企業を招き、その企業が持つ課題の解決を学生の目線から提案しようという講義と同じ形式を取りました。群馬の企業を学生が理解する上で役に立ちました。授業の形式という点で見ても受講して良かった講義です。



学長：確かに、普通に学生生活をしているだけだと企業の立場に立って考えることはないですね。

溝渕：ケーススタディなどはいろんな授業であったとしても、実際に使う知識やより深く理解する時に、企業の視点に立ってみることは大事だと思いますね。

## 今まで気付かなかった自分の能力の発見

学長：最後になりますが、この授業をどんな人たちに勧めたいと思いますか？

久保：グループワークでリーダーシップを身に付けたい、他人と協力して物事を進めていく人にこの講義を勧めたいです。自分はこの講義の中で、自分の能力を自分で理解できるようになり

ました。自分の心の変化になるような授業でした。

学長：そう言ってもらえると嬉しいです(笑)。自分の能力に気が付く、チャレンジする意味に気が付いたんですね。

久保：今回の授業で自分はこういう事ができるんだという自己分析の面でも変化のあった講義だと思うので、この先の就活に向けても自己分析は重要になるので、その面に関しても良い講義だったと感じます。変化を恐れない学生にもこの講義をお勧めしたいです。

学長：溝淵さんはどんな人に勧めたいですか？

溝淵：久保さんの回答の後だと言うことがないですね(笑)。社会人の方と実際にお話しができ、お話が伺えるというところで、大学4年間をどう過ごそうかと悩んでいる方にこの講義を勧めたいという気持ちがあります。社会で活躍されている方のお話を伺えるのは凄く良いことなので。久保さんの様に1を聞いて、10にも100にもしていける人が後輩から何人も出てくれたら先輩として嬉しいです(笑)。



学長：基本的に特別講義はチャレンジしてきた人ばかりを集めた講義なので、きっと学ぶことが多いと思います。ぜひ多くの学生さんに受講してもらいたいと思います。本日はありがとうございました。